

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立雀宮中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語	79人
② 算数	79人
③ 理科	79人

5 留意事項

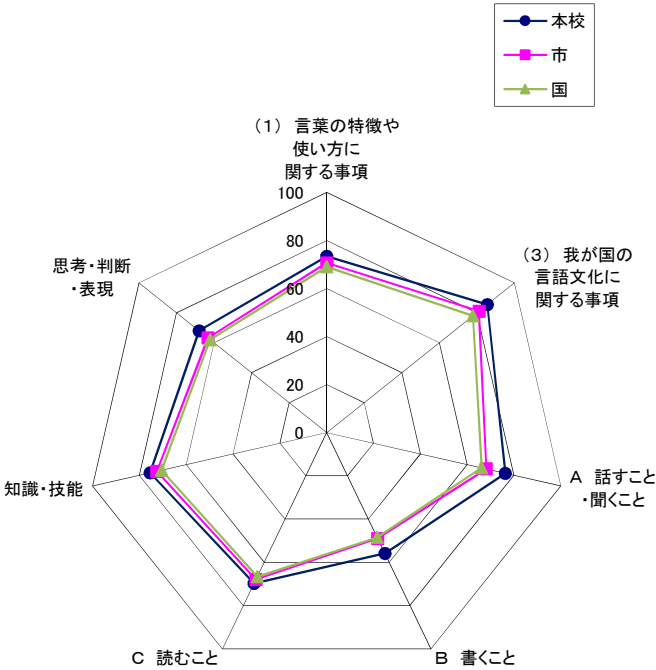
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立雀宮中央小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	73.4	70.7	69.0
	(2) 情報の扱い方に関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	85.5	81.1	77.9
	A 話すこと・聞くこと	76.3	68.2	66.2
	B 書くこと	55.9	48.9	48.5
	C 読むこと	69.7	67.9	66.6
観点	知識・技能	75.4	72.5	70.5
	思考・判断・表現	67.9	63.2	62.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

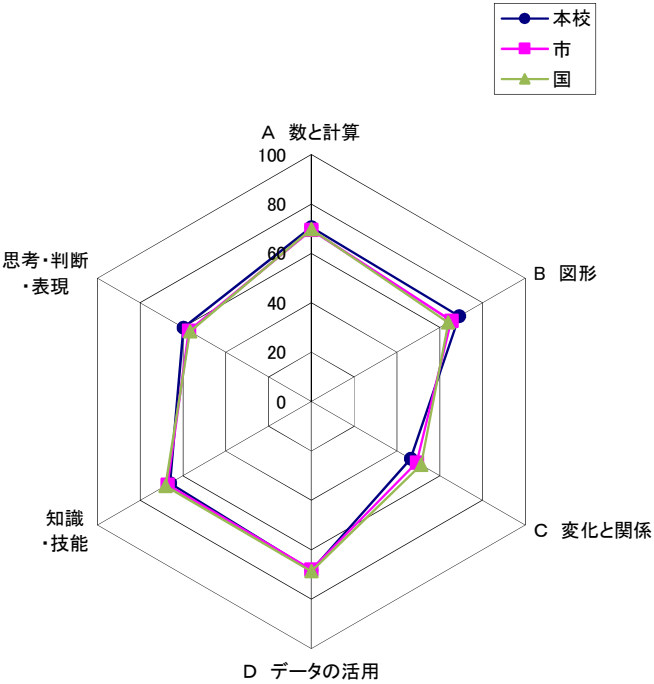
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	・領域の正答率は73.4%で、全国よりも2.7ポイント高い。 ○漢字を使って書き直す問題では、正答率が73.7%で、全国よりも9.1ポイント高い。 ●話し言葉と書き言葉との違いを理解する問題では、85.5%で、全国と同程度であった。	・同じ音で異なる意味をもつ漢字をAIDリルや漢字テストを活用して繰り返し学習させていく。 ・AIDリルや国語辞典等を活用して、繰り返し書き言葉を練習する活動を取り入れるようにする。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	・領域の正答率は、85.5%で、全国よりも7.6ポイント高い。 ○漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く問題では、正答率が85.5%で、全国よりも7.6ポイント高い。	・文字や文章を書く際に気を付けるポイント(とめ・はね・文字の大きさ・文字と文字との間・行の中心)に気を付けて書く習慣を継続的に指導する。
A 話すこと・聞くこと	・領域の正答率は76.3%で、全国よりも8.1ポイント高い。 ○互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる問題の正答率は60.5%で、全国よりも12.8ポイント高い。	・話し合いや意見を聞く場面では、自分の考えを広げたりまとめたりすることができるように、相手と自分の考えを比べながら聞いて話す指導をしていく。 ・自分の考えをまとめることができるように、国語だけでなく、学習活動のあらゆる場面で資料を用いて自分の考えを発表する指導を継続していく。
B 書くこと	・領域の正答率は、55.9%で、全国よりも7ポイント高い。 ○文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける問題の正答率は、48.7%で、全国よりも11ポイント高い。 ○文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える問題の正答率は、63.2%で、全国よりも4ポイント高い。	・文章を書くときは、自分の主張が明確になるような文章全体の構成を考えられるよう指導する。 ・目的や意図を正しく読み取り、条件に沿って自分の意見とその理由をまとめ、書く指導をする。
C 読むこと	・領域の正答率は69.7%で、全国よりも1.8ポイント高い。 ○人物像や物語の全体像を具体的に想像する問題の正答率は、76.3%で、全国よりも8ポイント高い。 ○登場人物の相互関係について、描写を基に捉える問題の正答率は、76.3%で、全国よりも6ポイント程度高い。 ●登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える問題の正答率は、64.5%で、全国よりも3.9ポイント低い。	・物語の読み取りでは、人物の気持ちを捉えることができるように、叙述を基に登場人物の気持ちを考えるように指導していく。 ・登場人物の気持ちを想像して物語に親しめるように読書の時間を確保したり、家庭での読書を啓発したりする。

宇都宮市立雀宮中央小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	70.6	69.5	69.8
	B 図形	69.1	65.4	64.0
	C 測定			
	C 変化と関係	46.4	49.3	51.3
	D データの活用	68.4	68.0	68.7
観点	知識・技能	66.1	67.3	68.2
	思考・判断・表現	59.8	57.3	56.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

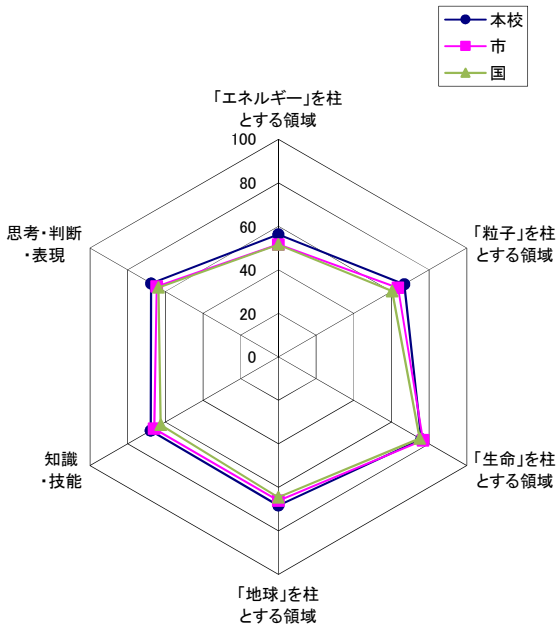
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	・領域の正答率は70.6%で、全国よりも0.8ポイント高い。 ○2けた×2けたの計算問題では、正答率が全国よりも7.3ポイント高い。 ●被乗数に空位のある整数の乗法の計算を問題では、正答率が全国よりも5.6ポイント低い。	・基本的な四則計算の力を高めるために、教科書の練習問題やドリルを反復して行う。 ・文章問題の内容を的確に捉え、正確に計算するために、処理の仕方について話し合ったり、個別指導を充実させたりする。
B 図形	・領域の正答率は69.1%で、全国よりも5.1ポイント高い。 ○正三角形の構成の仕方について考察する問題では、全国よりも10.4ポイント高い。 ○ひし形の意味や性質、構成の仕方を問う問題では、全国よりも5.9ポイント高い。	・合同な三角形のかき方の基本に立ち返り、三角定規の操作活動を多く取り入れ、使い方を丁寧に指導する。 ・図形の学習においてプログラミング学習を取り入れ、ひし形の意味や性質、構成についての理解を深める。
C 変化と関係	・領域の正答率は46.4%で、全国よりも4.9ポイント低い。 ○伴って変わる2つの数量が比例の関係であることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述する問題での正答率は50%で、全国よりも3.9ポイント低い。 ●果汁が含まれている飲み物の、量の変化による割合について問う問題での正答率は11.8%で、全国よりも10.6ポイント低い。	・果汁入りの飲み物について、もとにする量と比べられる量の関係を理解した上で問題に取り組む必要があった。それを踏まえて、割合の学習の際には、数量の関係をしっかりと押さえてから問題に取り組ませていく。 ・学校生活の中で、身の回りで用いられている割合について触れる機会を設け、割合を身近に感じさせ苦手意識をなくしていく。
D データの活用	・領域の正答率は、68.4%で全国や市と同程度である。 ○表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求める問題の正答率は77.6%で、全国よりも2.3ポイント高い。 ●分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察する問題の正答率は61.8%で、全国よりも2.1ポイント低い。	・他教科で表やグラフを扱う場合に、表やグラフから読み取ったことをもとにデータの特徴をまとめたり話し合ったりすることで、活用方法の幅を広げられるようにする。 ・一人一台端末を活用し、データを整理し、グラフに表すことのよさを実感させるとともに、日常的にデータを活用する機会を設ける。

宇都宮市立雀宮中央小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	56.3	51.7	51.6
	「粒子」を柱とする領域	66.8	63.5	60.4
	「生命」を柱とする領域	75.8	76.8	75.0
	「地球」を柱とする領域	68.4	66.1	64.6
観点	知識・技能	67.8	65.9	62.5
	思考・判断・表現	67.5	64.6	63.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	○領域の正答率は56.3%で、全国よりも4.6ポイント高い。 ○太陽の位置の変化に合わせて鏡の向きを変える動作について問う設問では、正答率が80.3%で全国よりも11.4ポイント高い。 ○課題を解決するために、最も適切な記録の仕方を選ぶ設問では全国よりも約7ポイント高い。 ●光の進み方のきまりをもとに、反射させた光をねらった的に当てる設問に課題が見られた背景として、まず、何を問われているのか理解することが難しかったことが考えられる。さらに、鏡に跳ね返された光がどのように進むのかについての実感を持った理解が不足していたと考えられる。そこで、鏡を操作する体験活動を十分に時間をとって行い、障害物を置いたり、連続して光を跳ね返してリレーしたりするなど、児童の興味関心をかき立て、疑問を網羅する体験活動を取り入れ、知識を基にするだけでなく、直感的に回答できるまで知識を深めるようにしていく。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの
「粒子」を柱とする領域	○領域全体の正答率は66.8%で、全国よりも6.4ポイント高い。 ○一定量の液体の体積を適切にはかり取る器具の名称を書く問題の正答率は90.8%で、全国よりも23ポイント高い。 ●空気中の水蒸気が冷やされて結露する現象について問う設問では、全国よりも10.7ポイント低い。	・水蒸気と回答すべきところを、「蒸気」、「水が気体になったもの」といった回答をしたケースが見られた。水蒸気という言葉の定着が不十分であること、正しい用語を用いて説明する習慣が不足していることが考えられる。実験結果や考察をまとめる際に科学的な用語を用いて書くことを意識させ、用語の定着を図る。特に目に見えない水蒸気については、概念の定着が難しいため、他の学習で水蒸気が登場する場面を捉え、復習を重ねていく。
「生命」を柱とする領域	○領域全体の正答率は75.8%で、全国よりも0.8ポイント低い。 ○昆虫の体のつくりの特徴を基に、ナナホシテントウが昆虫であるかどうかを説明するための視点選ぶ問題の正答率は80.3%で、全国よりも7.2ポイント高い。 ●育ち方と主な食べものの二次元の表から気付いたことを基に、昆虫の食べ物に関する問題を見いだして選ぶ問題の正答率は60.5%で、全国よりも5ポイント低い。	・2つの視点で表にまとめられた「気付いたこと」をもとに、すでに分かっていることと追究すべきことを整理する段階で課題が見られる。そこで、算数の表の見方の学習とも関連付け、実験や観察の後、表を使って情報をまとめた表を読んだりする活動を意図的に取り入れていく。また、観察などで得た結果を、他者の気付きの視点で分析して、解釈することにも課題があるため、他者の思考の道筋を理解するような学び合いを取り入れていく。
「地球」を柱とする領域	○領域全体の正答率は68.4%で、全国よりも3.8ポイント高い。 ○冬の天気と気温の変化を基に、問題に対するまとめを選ぶ問題の正答率は89.5%で、全国よりも7.2ポイント高い。 ●鉄棒に付着していた水滴と氷の粒は、何が変化したものか書く問題の正答率は51.3%で、全国よりも10.7ポイント低い。	・「ものが燃えるしくみ」や「植物のつくりとはたらき」「生物同士のつながり」等で、空気の組成を取り上げる際、水蒸気が含まれていることに触れ、結露についても復習するようにする。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか」の肯定的に回答した児童の割合は93.6%で、全国の割合を6ポイント上回った。委員会活動や当番活動への取り組みや、「雀央っ子が今年がんばること」の中で「自分の仕事を最後までがんばろう」を明示することで、やり遂げることを意識して活動に取り組もうという思いにつながったと考える。

○「地域や社会をよくするために何をするべきかを考えることがありますか」の質問に肯定的に回答した児童の割合は62.8%で、市や全国の割合を10ポイント上回った。本校で毎年6月に実施している雀央サミットでは、児童が地域をよくしていく取り組みを考えて、地域に提案するという活動を行っている。児童が自分の住む地域について考える機会を持つことが、地域・社会をよくしていこうという思いにつながっていると考える。

○「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う」の肯定的に回答した児童の割合は98.7%で全国より5ポイント高かった。また、「5年生で週3回以上使っていた」と回答した児童の割合が78.2%で、全国より20ポイント高かった。ICT機器を使って、自分で調べる場面や、発表やまとめる活動を多く取り入れたことが「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つ」という思いにつながっていると考える。

●「1日当たりどのくらいの時間、読書をしていますか」の質問に「全くしない」と回答した児童は39.7%で全国の割合と比べて12.6ポイント下回った。また、「新聞を読んでいますか」の質問に、8割以上の児童が「全く読まない」と回答している。さらに「放課後や週末に何をして過ごすことが多いですか」の質問を見ると、全国並みではあるが、情報機器に頼った過ごし方をしている児童が多い。今後は、家庭と連携して、読書や新聞に親しむ活動を啓蒙したい。

●「国語の勉強は好きですか」の質問に対して肯定的に回答した児童の割合は56.4%で、全国の割合と比べて5.3ポイント下回った。しかし、「国語の勉強は大切だと思うか」「将来に必要なと思うか」の質問には肯定的回答が多い。今後は、学習したことを読書活動や作文指導につなげることで、言語活動の日常化に努めたい。

宇都宮市立雀宮中央小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
表現力向上に向けた一人一台端末の活用	調べる、まとめる、伝える学習や学習内容の習熟における活用	国語の「書くこと」の領域に関して、領域の正答率は全国や市より高い。 質問紙の調査結果から、「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う」の肯定的に回答した児童の割合は98.7%で全国より5ポイント高い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
質問紙の調査結果から、「学校で自分の考えをまとめ、発表する場面、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか」の質問で、週1回以上と回答した児童が、全国より低い。	学習意欲、表現力向上に向けた一人一台端末の活用の工夫	学習の見通しをもたせ、学習したり、調べたりして分かったことを一人一台端末を活用してまとめる活動を計画的に取り入れる。また、授業中、一人一台端末を活用してまとめたことをもとに話し合う活動を意図的に位置付ける。